

「花屋さんのことば」

感情的必要のトップテン Part9

今回の「感情的必要のトップテン」は、「なぐさめ」です。

泣く者と共に泣く

拒絶された時、落胆した時、病の時、ストレス下にある時、失業した時、愛する者を失った時、悲しい出来事があった時などに人は普段以上に慰めを必要としています。家族がそのような状況にある時、私たちはできる限り助けてあげなければなりません。慰めを必要としている時には次のことは避けてください。●過ちを正す：「こういう事になったのは、...だからだよ。」●教える：「今度は...。」●げきを飛ばす：「さあ、元気出せよ。天気もいいことだし！」●アドバイスをする：「私だったらこうするわ。」　そうする代わりに、傷ついている人と共感してください。共感とは、人と同じような感情になる事です。痛む人と共に痛む事です。泣く者と共に泣く事です。慰めとは感情的な必要ですから、矯正や教えやアドバイスのような知性的な指示では満たされないのです。

花屋さんのことば

米国ミズーリ州のダグラス・マウラー君(15才)は数日間高熱が続いた後、白血病と診断されました。医師はダグラス君に白血病について率直に話しました。これから3年間は化学療法が続く事。髪の毛は全部抜け、体中がむくむであらう事。これを聞いたダグラス君は深く落ち込みました。そこでダグラス君の叔母さんが花屋さんに、白血病になった自分の十代の甥に贈るためにとって花を一束注文しました。病院に届けられた花はとても美しいものでした。ダグラス君は叔母さんからのカードを読みました。ところが、もう一つのカードがあり、こう書いてありました。「ダグラスへ。私があなたの注文を受けました。私はブリックス花店で働いています。私は7才の時白血病になりました。今は22才です。幸運を祈っています。あなたに同情を禁じえません。真心込めて、ローラ・ブラッドリー」　これを読んでダグラス君の顔は一気に明るくなりました。花店に働く人の小さな親切によって彼は大いに慰められたのです。